

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2021年12月分)

2022年1月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[新型コロナウイルス感染状況\(1~31日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[RS国民議会、国家管轄権の一時的再移管に向けた決議案を採択\(10日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[PIC・SB政務局長会合の開催\(7、8日\)](#)

●[米・EU、BH選挙法改正交渉の仲介停止を発表\(15日\)](#)

(2) 二国間関係

●[BH・露外相会談\(21日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[伊藤大使とジャポBH連邦環境・観光大臣の会談\(8日\)](#)

●[伊藤大使によるBHスポーツ・オブ・ザ・イヤー授賞式への出席\(8日\)](#)

●[伊藤大使のインタビュー記事掲載\(24日\)](#)

●[伊藤大使とヴィソコ市長の会談\(28日\)](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[BH要人、ドバイ万博でBHへの投資を呼びかけ\(18日\)](#)

(2) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●[EU、BH国内の移民・難民問題対策で新たに250万ユーロの資金援助\(3日\)](#)

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●新型コロナウイルス感染状況(1～31日)

12月の国内新規感染者総数は1万4,765人で、前月からはやや減少。

(2) エンティティ、特別区

イ. スルプスカ共和国 (RS)

●ドディック大統領評議会メンバーのロシア訪問(2、3日)

ドディック大統領評議会セルビア系メンバーはロシアを訪問し、2日にプーチン同国大統領と、また3日には露ガスプロム社の代表団と会談した。両会談後、ドディック・メンバーは、プーチン大統領がシュミットBH上級代表の就任を認めないとする立場を改めて示した旨発言。また、RSがロシアから現在市場価格を下回る値で輸入している天然ガスの価格を、2022年5月末まで現状維持とすることで合意した旨述べ、会談の成果を強調した。

●RS国民議会、国家管轄権の一方的再移管に向けた決議案を採択(10日)

RS国民議会は、司法、国防、徴税権限のエンティティへの再移管実現に向け、RS政府に対して今後6か月以内にRS独自の機関創設に必要な法案を議会に提出することを命じる決議を連立与党の賛成多数で可決した。同決議案に反発するRS野党は議会を途中で退場し採決に参加しなかった。またボシュニャク系与野党は、デイトン和平合意違反であるとして同決議を強く非難。当地クイント(米、英、独、仏、伊)プラスEU大使およびトルコ外務省も同決議を非難する声明をそれぞれ発出した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構 (EU加盟プロセスを含む)

●PIC・SB政務局長会合の開催(7、8日)

デイトン和平合意の履行監督を担うBH上級代表に対する助言機関として設置された和平履行評議会(PIC・SB)が政務局長会合を開催し、デイトン和平合意の履行状況およびBH情勢につき協議した。会合後に発表されたコミュニケにおいて各国は、RSによる分離主義的な動きを非難するとともに早期の国政正常化などを要請した。

●米・EU、BH選挙法改正交渉の仲介停止を発表(15日)

当地米国大使館とEU代表部は、12月10日のRS国民議会決議が更なる情勢不安定化を招く中、選挙法改正交渉に必要な環境が整っていないとして、19日に予定されていたパルマー米国特使およびアイホースト欧州対外行動庁西バルカン担当局長の当国訪問を取りやめる旨発表した。米・EUは2022年10月の当国国政選挙を見据え、2021年中の選挙法改正実現に向け交渉を仲介してきたが、ボシュニャク系とクロアチア系各党間に歩み寄りはなく交渉は停滞している。

(2) 二国間関係

●BH・クロアチア首脳会談(13日)

プレニコビッチ・クロアチア首相がサラエボを訪問し、テゲルティヤ閣僚評議会議長(中央政府の首相、セルビア系与党第一党SNSD所属)およびBH議会上下両院議長団等と会談した。両首脳は両国経済関係およびBH選挙法改正問題などにつき意見を交わした。同日、プレニコビッチ首相は南部モスタル市も訪問し、チョービッチHDZ党首(クロアチア系与

党)と会談した。

●ピーチ英国西バルカン担当特使のBH訪問(14～16日)

ピーチ英国西バルカン担当特使がBHを訪問し、大統領評議会3メンバー、トゥルコビッチ副首相兼外相、および当国主要野党党首等と当国情勢をめぐり会談した。ピーチ特使は、2018年から2021年初頭までNATO常設軍事委員会(MC)委員長を務めた後、12月2日にジョンソン英国首相により同特使に任命された。英国による西バルカン担当特使任命は、EUおよび米国に次いで主要国・国際機関で三例目となる。

●BH・露外相会談(21日)

トゥルコビッチBH副首相兼外相(ボシュニャク系与党第一党SDA所属)は、BH・ロシア外交関係樹立25周年にあわせてロシア・ソチを訪問し、ラブロフ同国外相と会談した。両外相はBH情勢および両国経済関係などにつき意見を交わした。ラブロフ露外相は、シュミットBH上級代表の正当性を否定するとともにOHR閉鎖を求める従来の立場を発言。これに対してトゥルコビッチBH外相は、RSによる分離主義的動きへの懸念を表明しつつ、OHRによる継続的な活動の必要性を指摘した。

●トルコ国防相のBH訪問(27日)

アカラ・トルコ国防相がBHを訪問し、ポジッチ国防相(ボシュニャク系与党第二党DF所属)および大統領評議会3メンバーとそれぞれ会談した。両会談では、国防分野における両国間協力の強化などに向け意見が交わされた。

(3)日・BH関係

●伊藤大使とジャポBH連邦環境・観光大臣の会談(8日)

伊藤駐BH日本国大使はジャポBH連邦環境・観光大臣と会談し、BHの観光開発および環境保護の政策をめぐり意見を交わした。



(写真:伊藤大使とジャポ大臣)

●伊藤大使によるBHスポーツ・オブ・ザ・イヤー授賞式への出席(8日)

伊藤駐BH日本国大使は、BHオリンピック委員会が主催する、今年最も活躍した選手を表彰するBHスポーツ・オブ・ザ・イヤー授賞式に出席し、プレゼンターを務めた。最高賞である「スポーツ・オブ・ザ・イヤー」には、2020年東京オリンピックのテコンドー競技で入賞したフシッチ選手が選ばれた。



(写真:伊藤大使による各賞の授与)

● 伊藤大使のインタビュー記事掲載(24日)

BH南部モスタル市で発行の主要地方紙ドゥネブニ・リストに、伊藤駐BH日本国大使のインタビュー記事が掲載された。

● 伊藤大使とヴィソコ市長の会談(28日)

伊藤駐BH日本国大使はヴィソコ市(BH連邦。サラエボから北西に40km)を訪問し、同市のガニッチ市長との間で、ヴィソコ市との協力等について意見を交わした。ガニッチ市長は、BHおよび同市に対する日本からのこれまでの支援に謝意を述べた。



(写真:伊藤大使とガニッチ市長)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

● BH財政理事会、IMF要請の協議開催を拒否(10日)

国と両エンティティの首相および財相で構成されるBH財政理事会は、先にランツIMF西バルカン担当局長が要請していた、IMFとBH財政理事会の合同協議実施を拒否する方針を決定した。11月、IMFはRSが進める徴税権などの国の管轄権の一方的再移管に向けた動きに懸念を表明するとともに、その結果がBH経済にもたらしうる影響などにつき協議

したいとして、BH財政理事会に合同協議の実施を呼びかけていた。

● BH要人、ドバイ万博でBHへの投資を呼びかけ(18日)

ズビズディッチBH議会下院議長、フォルト・サラエボ・カントン(県)首相、デリッチ同カントン経済相は、ドバイ万博期間からBHに割り当てられた「BHの日」にあわせ同万博を訪問、関連行事に出席し、各国の投資家にBHへの投資を呼びかけた。

(2) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

● EU、BH国内の移民・難民問題対策で新たに250万ユーロの資金援助(3日)

EUは、BH国内に滞留する移民・難民問題対策支援の一環として、BHに対して新たに250万ユーロの資金援助を実施。BH国内では収容施設の不足により、依然として1,000人を超える移民・難民が路上などの施設外に滞在せざるを得ない状況に置かれている。